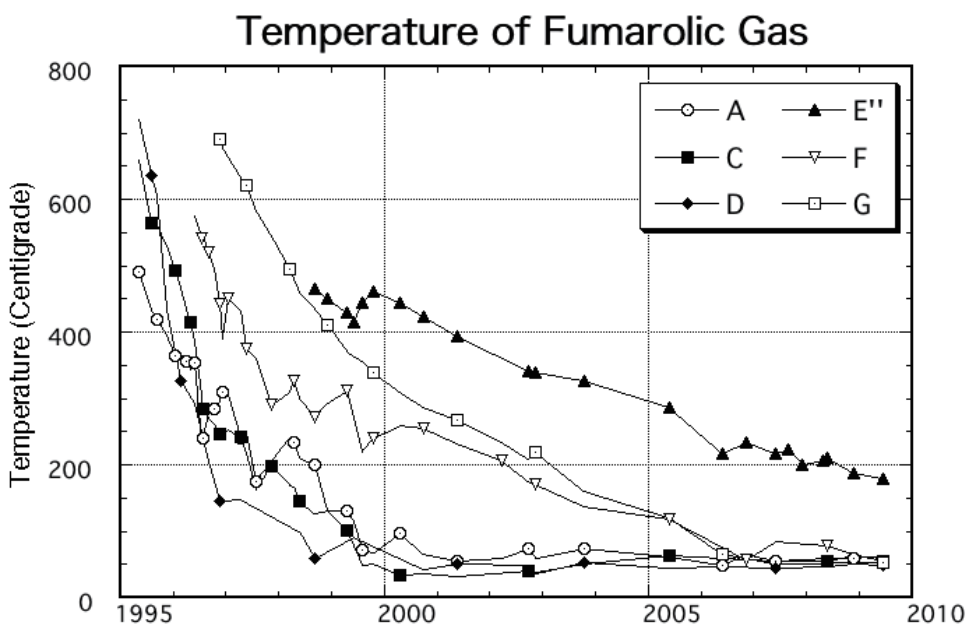
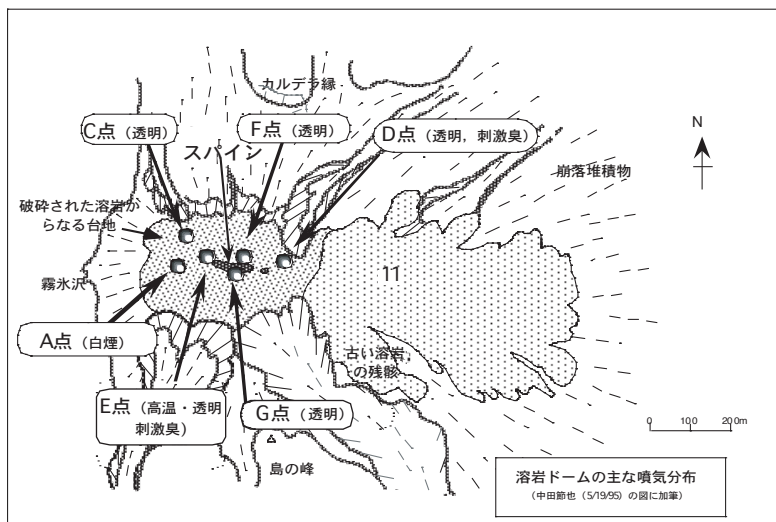


# 平成新山ドームの噴気ガスの温度変化



- 噴気ガスの温度は順調に低下している。2008 年秋以降は最高温度が摂氏 200 度を下回っており、2009 年 6 月 12 日測定での最高温度は E 地点の摂氏 179 度であった。
- E 点は活動末期に隆起した尖頂 (Spine) の西側の根元にあり、マグマの湧き出し口 (旧地獄跡火口) の直上にある。以前見られたモリブデン化合物は見られず、現在は硫黄の昇華物のみ肉眼で確認される。
- 青白いガス (主に二酸化硫黄) や刺激臭のガスの量もしだいに減少している。
- 参考までに E 点噴気口において北川式検知管を用いて噴気ガスを測定した結果、CO<sub>2</sub> 3800 - 4200ppm, SO<sub>2</sub> 8 - 10ppm, H<sub>2</sub>S 検知せず, HCl 80 - 110ppm であった。前回 (2008 年 5 月 20 日) と比べて、特に有意な変化は見られない。

\*山下裕亮・池端 慶・雑賀 敦・長井大輔・松島 健・渡邊篤志・清水 洋・松尾紉道